

## ワンセグ携帯、2006年度600万台突破確実へ

3月27日、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)から、ワンセグ携帯の出荷台数が発表された。それによれば、2月の出荷台数は113万台、累計で497万台となった(図1)。

シード・プランニングが2006年10月にまとめた調査レポート『日本のデジタル放送の普及シナリオ 2006年版』では、06年度の普及を500万台と予測していた(図2)。2007年1月までは全くそのペースで来ていたが、2月に一気に113万台と急増した。去年11月以来、47万、58万、43万と毎月50万前後で推移してきたが、キャリア各社が春ケータイを売り出し、ワンセグ対応型のラインナップが充実し始めたために、普及は一挙に早まったようだ。2006年度の実績は600万を越えてくると思われる。

今後の展開としては、弊社予測をさらに上回ってくる可能性が高い。ワンセグに最も積極的に取り組むauは、今回の春ケータイで全10機種中すでに7機種をワンセグ対応としている。早ければ今年中にワンセグは第3世代携帯の標準装備になるという。そのauは3割ほどのシェアを持つ。つまり同社の携帯だけで、『日本のデジタル放送の普及シナリオ 2006年版』の07~08年度分を十分達成してしまう勢いとなってきた。数字については、2007年版で大幅に修正する必要がある。

図1 ワンセグ対応携帯電話の出荷実績(JEITA発表)

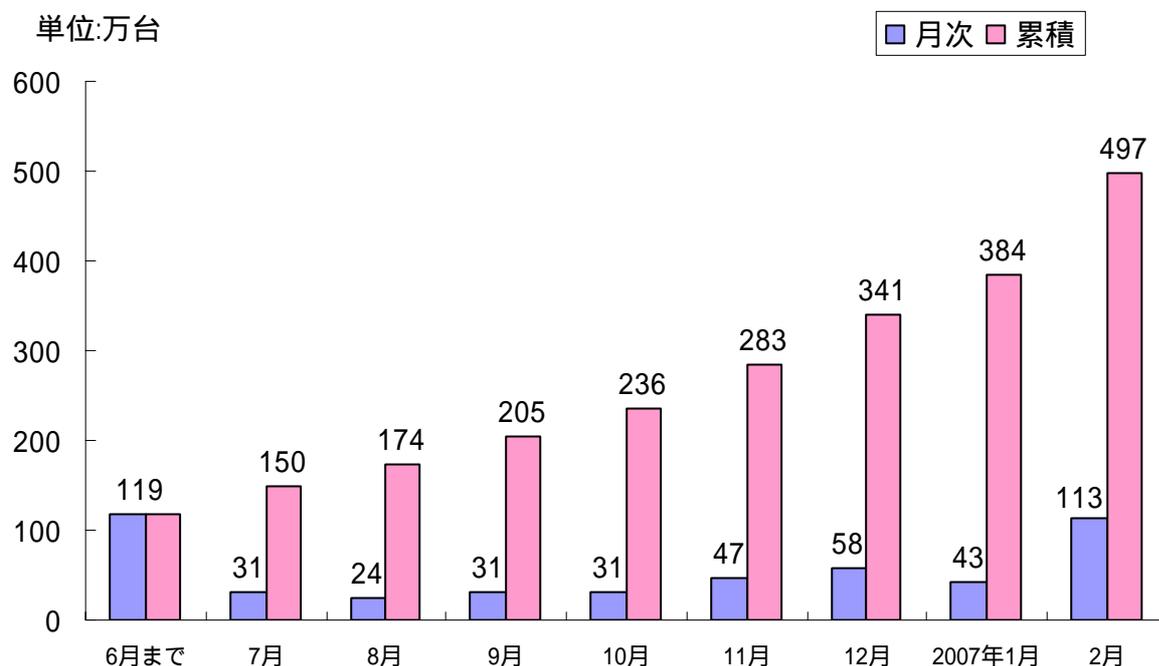
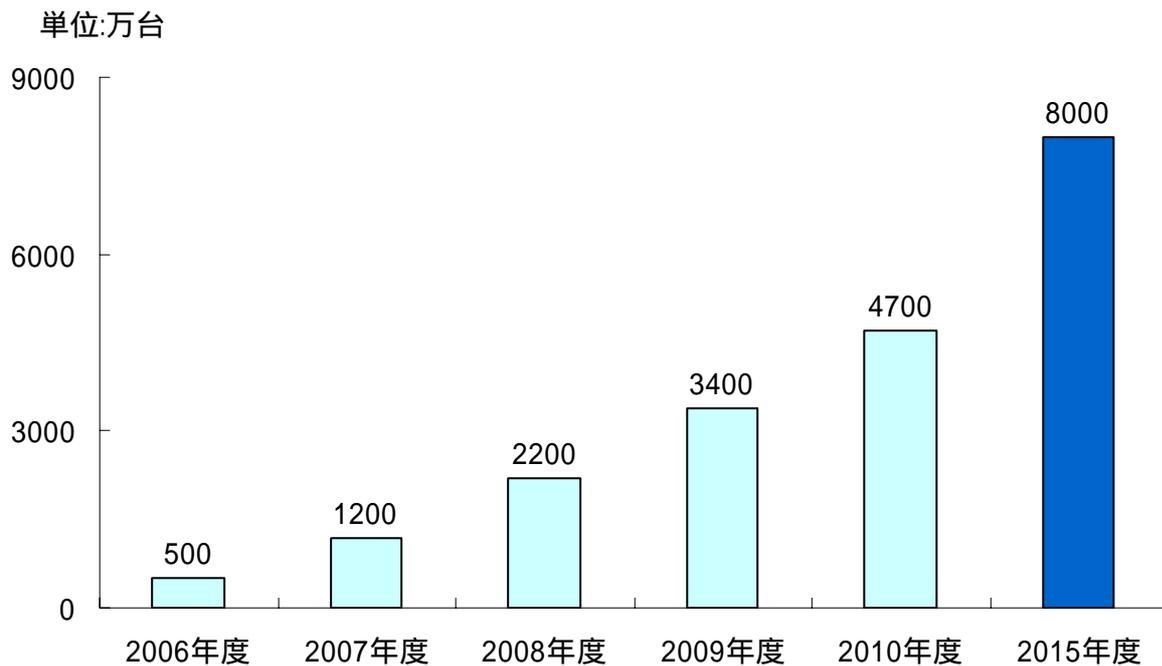


図2 ワンセグ対応携帯電話の普及予測(シード・プランニング予測)



ワンセグに関する最大の注目点は、今後ビジネスにどう結びついていくのかである。端末の普及については、対応USBチューナー・ゲーム機・ポータブルDVDプレーヤー・専用液晶テレビ・電子辞書、そしてカーナビなどがある。中でも対応USBチューナーは7000～8000円台のものが店頭に並ぶようになっており、ワンセグ携帯を凌ぐ勢いで売れ始めている。

サービスにまつわるビジネスとしては、2008年以降の独自放送の行方がまず注目される。そして長期的には、対立構造が明確になってきたメディアフロー対ISDB-Tmmの行方、つまり新サービスがどうなるかが注目される。さらには、モバイル端末での録画、ハイライト番組の提供、PCからのダウンロードなど、関連機能・サービスがどうなるかも、ビジネスの成否に大きく関わる。

『日本のデジタル放送の普及シナリオ 2006年版』には、こうした問題に対する関係者・有識者の見解が掲載されている。予測を上回るペースで売れ始めたワンセグ携帯をどう見るか、未来を正確に展望するための参考資料として改めてご覧いただきたい。

## &lt; 調査概要 &gt;

## 主な調査項目

デジタル全面移行について（アナログ放送終了時期と受信機のデジタル化）  
 デジタル放送および関連インフラの普及予測（～2010年度・2015年度）  
 地上デジタル受信機、地上デジタル、BS デジタル、110度CS デジタル、124/128度CS デジタル、ワンセグ対応携帯電話  
 ワンセグ・サービスの可能性  
 通信・放送融合型サービスと関連機器等の普及  
 デジタル受信機の価格動向  
 日本のデジタル放送をめぐる新ビジネスの展望と課題

## 調査対象

放送事業に関わる業界関係者 102 人  
 放送 1 30 人（地上キー局、ローカル局、BS デジタル局）  
 放送 2 22 人（CS 委託放送時魚素は、コンテンツ制作、代理店ほか）  
 通信・インフラ 24 人（通信事業者、プラットフォーム、CATV 局ほか）  
 メーカー 26 人（受信機メーカー ほか）

## 調査方法

郵送によるアンケート調査、ヒアリング調査

## 調査期間

2006 年 8～10 月 業界関係者アンケートの実施は 2006 年 8 月

レポート名	日本のデジタル放送の普及シナリオ 2006 年版
発刊日	2006 年 10 月 12 日
体裁	A4 / 180 ページ
販売価格	99,750 円(本体価格 95,000 円、消費税 4,750 円)
発行	株式会社シード・プランニング

## 本件に関するお問合せ先

株式会社シード・プランニング

〒110-8767

東京都台東区上野 5-6-10 台和上野ビル 4F

TEL : 03-3835-9211(代) / FAX : 03-3831-0495

E-mail : info@seedplanning.co.jp

担当 : 両方